

# 宇部・山陽小野田防災協会会長賞

## 「自然災害から身を守るためには」

山陽小野田市立高千帆中学校 2年 中田 遥那

ここ最近、日本では毎年、集中豪雨によって河川の氾濫や土砂災害が多くなっています。今年も各地で、記録的豪雨による災害の様子をテレビで見ると、自分の想像をはるかに超えていました。

今年の7月、私の住んでいる山陽小野田市の一部の地域でも、線状降水帯による大雨に見舞われました。道路が冠水したり、床上浸水したり、被害が出たとニュースで見ました。厚狭川と大正川があふれて、山陽小野田市が最も高い大雨警戒レベル5「緊急安全確保」を出したのは、午前1時35分でした。けたたましく防災メールの通知が鳴り、私はこんな真夜中に避難しなくてはいけないなんて、正直怖いなと感じました。

自分が実際に豪雨災害を体験しないと、どこか「大丈夫だろう。」という気持ちでいる私があります。それでは、実際自分の身に起きたときに、正しい行動ができないような気がします。自然災害には、「大丈夫」という言葉は通用しないと感じました。

大雨から身を守るためには、まず、危険な場所には近づかないこと、自分で情報を集めて、想像力を働かせて、自分の身は自分で守ることが大切です。

私の家の近くにも、有帆川があります。近所に住んでいる人の話では、何十年も前には、このあたりまで水がきたことがあると聞きました。もし、河川があふれたときには、どう逃げるかイメージしておくことが大切です。毎年、学校からハザードマップをもらえます。これからは、年1回、家族で共通認識と

して、避難場所や避難経路の確認をし合う時間を作りたいと思います。

自然災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。時として、自分の想像をはるかに超える力で襲ってきます。集中豪雨が続き、道路の冠水や住宅の浸水が避けられないと判断したときは、無理にその場に留まらず、安全に、そして迅速に避難をすることを一番に考えなくてはならないと思いました。

いのちを守る避難の方法は多様化しており、避難所に行くことだけが正しいわけではありません。「在宅避難」や「縁故避難」など、一人一人自分に合った行動が重要だと考えます。

防災対策で大切なことは、自分の身の安全を守るために一人一人が自ら取り組む「自助」と、近所や周囲の人が協力し助け合う「共助」だそうです。自分の身の安全の守り方を知っておくこと、水や食料などの備えをしておくことが必要だと思います。自分と家族の命を守り、そして地域を守るため、「自助」と「共助」相互のバランスが重要であると思いました。

